
苦しくて

福野あや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦しくて

【Nコード】

N3405F

【作者名】

福野あや

【あらすじ】

考えすぎて苦しくなる、こと、が、よくある。今日もまた。過呼吸発作。このまま消えてしまえたら、楽、に、なれる、かな。

吸っても吸っても苦しい。私は確かに呼吸をしているはずなのに、いくら吸っても肺は充たされない。泣きじゃくっているみたいな声も混ざる。

「ゆーっくり息しようねー」

出来るならとつくにしてるし。それが出来ないからこうして必死に吸ったり吐いたりしてんだよ。

口に溜まった唾液が、糸を残しながら垂れた。飲み込めない。飲み込んだら呼吸が途切れる。

そんなことしたら私その瞬間に死んじゃう！

かろうじて手の甲で拭えるものの、指が痺れてグーの形のまま固まっている。本当はティッシュとかで拭きたい。とても拭きたい。

私の唾液でべっちより汚れた、

私の手。

この苦しさを、過呼吸、というらしい。体内の酸素が増えているか

ら、紙袋などで口と鼻を塞ぎ、ゆっくりと呼吸をして自分の吐いた二酸化炭素を吸い込む、というのが解消法だと、私は知っている。しかしこの生きるか死ぬかの状況で、ゆっくり呼吸をする、などという冷静な行動は取れるはずがなかった。

耳鳴りが酷い。

看護師の女の、大丈夫だからね—という、今の私から言わせると無責任極まりない言葉や診察室のざわめきが遠退いていくのがわかった。数人に抱えられて、ベッドに寝かされる。

嗚呼…ついに…

さよなら、私。

さよなら、みんな。

そう思ったその時、右肩がちくりと痛んだ。その感覚は徐々に増していき、もうダメだと思った所で解放された。

「今、身体が楽になるお薬注射したからね—」

楽になる薬…にしては痛かった気がする。声が出て手足が動かせる状態だったら、注射をした看護師を、間違いなく蹴り倒していただろう。それに、楽になる…楽になるってどの”楽”なんだろう。

浅く早いままの呼吸。

垂れ流しの涎と涙。

ズキズキ痛み出す右肩。

薄れる意識。

少しでも、一秒でも早く収まるなら、私なんだから！
なんだったってするから！
だから……！！

何事もなく眠りにつく時みたいだった。
脳味噌内で散々飛び交っていた言葉も、飛んだ意識の中に飲まれた。

目が覚めた時、どうかこの苦しさが残っていませんように。

最後の最後に、それだけ願った。

（後書き）

全く中身がないんですが（汗）ほとんど体験した時のことです。実際に意識は飛びませんでした。今も完治してなくてたまに出ます。なんとかしたい！という気持ちも込めて、思いきって書きました。もう、ほんと、意味わからなくてすみません……！読んで下さった方、ありがとうございました！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3405f/>

苦しくて

2011年1月5日14時24分発行